

平成24年度 横浜国立大学大学院国際社会科学研究所  
専門職学位課程 法曹実務専攻（法科大学院）

入学試験第2次選抜

# 刑 法

時 間 15:45～17:15

●注意事項（よくお読みください）

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 自分の受験番号と机の上の受験番号が同じであることをよく確かめてください。
3. 時計のアラーム、携帯電話等の電源は切ってください。
4. 机の上に置いてよいものは、①受験票、②筆記用具（鉛筆、ペン、消しゴム）、③鉛筆削り（電動式を除く）、④時計（携帯電話やPHSを時計として使用することは認めない）、⑤メガネ、⑥目薬、⑦ティッシュペーパー、⑧ハンカチです。これらは、予め机の上に置いておいてください。
5. 上記4で掲げた試験のために必要なもの以外は、かばんに入れて椅子の下に置いてください。電源を切った携帯電話も、身につけず、かばんに入れてください。
6. 配布物は、①問題冊子、②解答用紙、③下書き用紙、④六法の4種類です。足りないものがあつたら、挙手で合図し、試験監督にその旨申し出てください。
7. 解答用紙の所定の欄に、受験番号と氏名を記入してください。解答用紙は、全部で2枚あります。そのすべてに受験番号と氏名の記載欄がありますので、漏れなく記入してください。なお、解答用紙はホチキスで綴じられていますが、その針は外さないでください。
8. 試験問題は、問題1～2の2つがあります。必ず指定の解答用紙を使ってください。解答用紙はそれぞれ両面になっています。なお、解答用紙が足りなくなった場合は、解答用紙の追加分を渡しますので、監督者に挙手で合図してください。解答用紙の追加分を使用する場合は必ず、上段の問題番号記載欄に、対応する問題番号を記入してください。
9. 試験時間は、90分です。中途退席は原則として試験開始後40分まで認めません。また、中途退席者は、再度入室することができません。試験終了直前の10分間も退席できませんので、よく注意してください。ただし、気分が悪くなったときや、トイレに行く必要があるときなどは、近くの監督者に挙手で合図し、遠慮なく申し出てください。
10. 試験開始後、受験者本人であることの確認（写真照合）を行います。その際は、監督者にご協力ください。

以下の2問、問題1、問題2とも解答せよ。解答に際しては、関連する主要な判例についても言及すること。特別法については論じなくてよい。

(配点：両問とも50点)

### 問題1

Xは、借金がかさみ、苦しい生活を送っていた。

そこでXは、2011年10月5日に後輩のYに会い、Yに「自動車事故を装って保険金を得ることにしたい。俺が赤信号のところで自動車を停める。そこにお前が運転する車で、後ろから軽く怪我する程度に追突してくれ。保険金がお礼はするから」と話した。Yは、以前にXに世話になったこともあったので、Xの依頼をしぶしぶ承諾し、翌日、横浜市内で偽装自動車事故を行うことを計画した。計画では、軽い怪我とは、全治1～2週間程度であって、治療すれば全快するような程度のものを意味していた。

翌6日、Xは横浜市内において自ら運転する普通乗用車（以下「X車」）を走行させ、同じくYは、自ら運転する別の普通乗用車（同「Y車」）でX車の直後を追走した。

そして、X車がB町付近の交差点において赤信号に従って停止したところへ、Yが時速30キロメートル程度の速度で、Y車をX車の後部に追突させた。

この衝突の際に生じた衝撃で、X車の運転座席にいたXは顔面をフロントガラスに強打し、その左頬部分について切傷（全治2週間）を負ったほか、右眼球損傷により右目を失明するに至った。

Xの負ったこれら傷害の結果についての、XとYのそれぞれの罪責を論じなさい。

## 問題2

Xは、大学時代の恋敵であったAが、好意を寄せていたBと結婚して横浜市にある10階建て鉄筋コンクリート造の難燃性のマンションで幸せな新婚生活を送っていることに対して常日頃から恨みを持っていた。

そこで、Xは同マンションで騒ぎを起こしてAらを困らせてやろうと思いつき、エレベーターなら燃えそうだと考え、同マンションに設置してあるエレベーター内部（いわゆるかごの部分）においてライターで丸めた新聞紙を燃やしてエレベーター内部の壁際に放置した。その結果、エレベーター内部の壁紙約1平方メートルが黒く焦げたが、火がマンションの居住部分に及ぶことはなく、有毒ガスの発生などもなかった。

Xは如何なる罪責を問われるか。